

ある言葉と風景

J A1VWB 木村 一乗

二月に入って雪が降った静かな夜でした。

珍しく夢を見ました、内容はいつもと変わりなく他愛もない内容でしたが、然しその中で強烈に脳裏に焼きついた風景と、言葉がありました。それは、**峨眉山（がびさん）**、と**色即是空**という地名と言葉でした。

色即是空

「色即是空。空即是色。」は仏教経典を知らない人でも知っている有名な言葉です。以前に父親から **Sanskrit** (サンスクリット) (古代インド語) 梵語の原本から来ていると聞いた事がある。

ちなみに私の名前は **一乗 (カズリ)** (古代インド語) 梵語で**エカヤーナ** と言う、この意味は車輪のスポークを意味し天空を支える基礎たる部品でひとつでも欠けると全てが破壊される大事な大事な部品であると聞かされていた。名前負けした現状は自分でも認めている。

そのことはさておき本題に戻ろう。

この**色即是空**は梵語によるとこの世においては、物質的現象には実体がないのであり、実体がないからこそ、物質的現象で (あり得るので) ある。色とは有形の万物をいい、これらの万物はすべての因縁の所生で、その本性は実有のものでないから、空である。

ひらたく言うと、すべての形あるものは、永久に実在することはできないから、その本質は空である。

私たちの心は認識と感情の混在した複合体であり、その認識、つまり知識として、体や物質、物体、現象は無常なものとして客観的に見られるのです。人間はいずれは死ぬものだと知識として知っているのは人間だけで他の生命体にはないそうです。

これからさらにこの問題に興味ある方は、近所の仏閣に行かれお聞きになられればと存じます。ちなみに J A1VWB は **Christian** です。

峨眉山 がびさん と読みます。

中国四川省峨眉県の西南にある名山。(峨眉山とも書く)山の形が蛾の眉に似ているのでなづけられたという。海拔 **3099** 五台山、天台山とともに中国の仏教の三大霊山と言われる。

思 夜 影 峨
君 發 入 眉 峨
不 清 平 山 眉
見 溪 羌 月 山
下 向 江 半 月
渝 三 水 輪 歌
州 峡 流 秋 李
白

峨眉山の歌 李白

峨眉山月半輪の秋
影は平羌江水に入って流る
夜清溪を發して三峡に向う
君を思えども見えず渝州に下る

この歌について訳する必要がないと思いますがあえて書かせて下さい。

峨眉山に半月がかかる秋の夜。
月の光には平羌江の水面に映り、
ゆらゆら揺れながら流れてゆく。
私は夜、舟で清溪を出発して
三峡に向った。途中君の面影を
慕いながらも見えず、やるせない
気持ちを抱きながら渝州へと下って行った。

この漢詩から峨眉山周辺の風景お分かりになりましたか。

余裕と時間があればこの歌のように峨眉山、清溪より三峡を旅したい。

何故、峨眉山の風景や空即是空という言葉などの夢を見たのか考えてみた、最近読んでいる本が原因のようだ、その中に入り込む自分が子供じみて可笑しく感じ朝起きてから家内と共に笑ってしまった。

本の題名：西遊記

作者： 吳 承 恩（ごしょう おん）1500年に中国江蘇省淮安に生まれる。

71才で「西遊記」を書き始め83才で没。

翻訳者：君島 久子（きみしま ひさこ）

発行所：株式会社 福音館書店

二月初めに 第六十一回 猪八戒 助力して魔王破り

孫行者 三調芭蕉扇をだましとる

の章を読み終えたところだが最終の第百回目までは時間がかかりそうだ。

この章のなかに峨眉山の事が書かれていた、またこの峨眉山については別の思い出がある。私が中学一年の時同じ学校に父が英語の教師として教鞭をとっていた、学校での父のあだ名が「**峨眉山の鉄観師**」と言う仙人の名前から由来して**鉄観師**と言われ、その為か私のあだ名が**ベビー鉄観師**となった次第である。学校中で皆んながそう呼び恥ずかしいやら、嬉しいやら変な気持ちで三年間を過ごした事を改めて思い出して寢床に入った。それ故可笑しな夢を見たのが原因とも思われる。父は九十二才で昇天し、今仮に存命ならば九十六才です。そんな父が夢の中で峨眉山から小声で信号を発したのかも知れない、真冬の夜の夢である。

御草草様でした。

JA1VWB 木村 一乗 （平成十八年二月十一日 記）